

事例 4

豊富な機械加工技術を提案し、 独自性を発揮

大野精工(株)

治工具をはじめとする各種機械装置の部品を手掛ける大野精工（愛知県西尾市）は、ワイヤ・形彫り放電加工とレーザ加工を戦略的に活用し、取引先のモノづくりを支える。ワイヤ放電加工は切削で仕様を達成するのが困難な形状や精度の加工に、レーザ加工は中精度の板材の抜き加工やシムなどを製作する際に使用することで、さまざまな依頼に対応する。切削や研削、ラップなどの加工とともに、総合的な機械加工技術を提案することで独自性を発揮している。

手のひらサイズの部品製造に幅広く対応

大野精工は地元の大手自動車部品メーカーに各種製造装置の部品を供給する。大野龍太郎社長(写真1)の父でデンソーの技能者だった孝久氏が1999年に創業した。現在、切削と研削、ラップ、ワイヤ・形彫り放電、レーザなどのあらゆる機械加工技術で部品を製造する体制を構築している。

手掛ける部品の大きさは、角材が300×300mm、丸形状がφ200mm。材料はSS400など鉄や銅、アルミニウム、ステンレス、SK材系のほか、超硬合金や各種チタンなど。PEEKやPOMなどの

樹脂、ゴムにも対応する。

「創業から大手自動車部品メーカーと長年取引があるので、形状やコスト、納期などあらゆる面が鍛えられました。サイズが合えば大体の依頼には応えられる体制は整っています」と大野社長は自社の特徴を説明する。

厳格な幾何公差や形状の部品に ワイヤ放電加工を活用

大きさや材質、形状がさまざまな治工具や装置部品のなかでも、製作依頼が多い形状の1つが、爪形状をもつ部品(写真2)である。装置内で加工物をクランプする役目をもつ場合が多く、その際は正確な位置決め精度を発揮する機能が求められる。期待される役割が高度な部品に対して、ワイヤ放電加工を効果的に活用する。穴ピッチや対称度が求められる部品(写真3)にもワイヤ放電加工が大きな役割を果たす。

また、高精度な加工を効率良く行うための独自の工夫として、社内で設計・製作する治具を活用

会社概要

会社名 大野精工(株)
所在地 〒445-0012 愛知県西尾市下羽角町大縄 35-1
TEL 0563-75-3922
設立 2001年
代表者 代表取締役社長 大野龍太郎
従業員数 125名
事業内容 各種産業機械・装置部品や治工具の製造



写真1 大野龍太郎社長